

北海道余市紅志高等学校

課程 単位制
 学科 総合学科
 生徒数 207名

1 事業のねらい

生徒に対するコミュニケーション能力育成のための講義、トレーニングを計画的に実施し、地域や他校種との交流を実施することにより、生徒のコミュニケーション能力を育成し、学校生活への適応能力を向上させる。

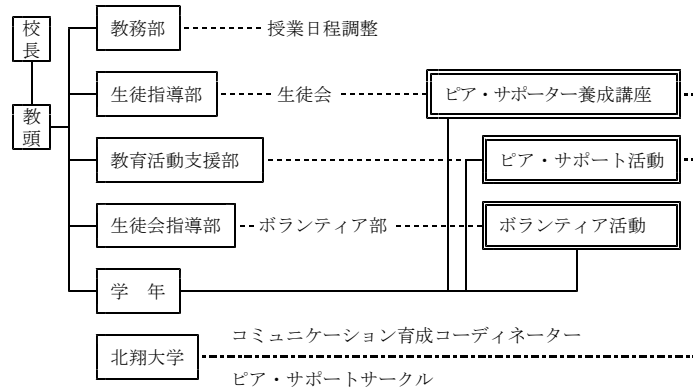
また、教員に対し、予防的・開発的教育相談の手法や集団的カウンセリングの手法などの周知普及を図り、生徒のコミュニケーション能力の育成を支援する。

2 取組の経過

1年生 教科「産業社会と人間」
 ・単元「コミュニケーションスキルを身につけよう」(4コマ)
 9月1日、15日
 構成的グループエンカウンター
 ピア・サポート活動
 2年生 教科「保健体育」LHR(2コマ)
 ・単元「思春期教育 性に対する正しい知識の獲得」
 12月17日
 教員研修 ピア・サポート活動に関する知識・技能の向上 2月10日

ボランティア活動
 ・通学路清掃活動(全学年)
 4月28日
 ・余市養護学校訪問(1、2学年)
 6月8日 花壇づくり交流会
 6月12日 運動会手伝い、参加
 12月12日 餅つき大会
 ・余市豊浜学園訪問
 8月28日 秋祭り参加
 ・余市幸住学園訪問
 9月11日 ふれあい祭り参加

<組織図>



3 主な取組の内容

1 構成的グループエンカウンター

- (1) 日時 9月1日(水曜日) 13:20~14:00
 9月15日(水曜日) 13:20~14:00
 (2) 場所 本校体育館
 (3) 内容 コミュニケーション育成コーディネーターによる人間関係づくりを支援するための構成的グループエンカウンターを実施した。
 ・具体的内容 挨拶ゲーム、ミラーリング、お絵かきゲーム、何でもバスケット伝言ゲーム、ハンカチ落とし

2 ピア・サポート活動

- (1) 日時 9月1日(水曜日) 14:00~15:10
 9月15日(水曜日) 14:00~15:10
 (2) 場所 本校体育館
 (3) 内容 北翔大学ピアサポートサークルの学生によるピアサポート活動を実施した。
 ・具体的内容
 ①自己理解 ②聴く練習 ③アサーション ④ストレスマネジメント
 ⑤協力体験(初めての人を協力して指定した場所に案内する)

3 ボランティア活動

- (1) 通学路清掃活動(全学年)
 ア 日時 4月28日(水曜日) 16:00~17:30
 イ 場所 本校校地内、余市町沢町町内会
 ウ 内容 全校生徒で、校地内及び通学路で清掃活動を行った。
 (2) 余市養護学校花壇づくり交流会(全学年)
 ア 日時 6月8日(火曜日) 16:00~18:00
 イ 場所 余市養護学校
 ウ 内容 ボランティア部生徒が、養護学校を訪問し、本校で栽培した花苗を寄贈するとともに、その苗を養護学校の生徒と共に花壇づくりを行った。
 (3) 余市養護学校運動会の実施協力(全学年)
 ア 日時 6月12日(土曜日) 8:00~15:00
 イ 場所 余市養護学校
 ウ 内容 余市養護学校を訪問し、運動会会場設営を手伝うとともに、用具の出し入れなど、運営業務を手伝った。
 (4) 余市豊浜学園秋祭り(全学年)
 ア 日時 8月28日(土曜日) 9:00~15:00
 イ 場所 余市豊浜学園
 ウ 内容 ボランティア部生徒が、余市豊浜学園(知的障害者施設)を訪問し、バザーや物品販売などの行事の手伝いを行った。

(5) 余市幸住学園 ふれあい祭り参加（全学年）

ア 日 時 8月28日（土曜日） 9：00～15：00

イ 場 所 余市幸住学園

ウ 内 容 ボランティア部生徒が、余市幸住学園（知的障害者施設）を訪問し、会場設営やバザーや物品販売などの行事の手伝いを行った。

(6) 余市養護学校餅つき大会の実施協力（全学年）

ア 日 時 12月12日（日曜日） 9：00～14：30

イ 場 所 余市養護学校

ウ 内 容 余市養護学校を訪問し、餅つき会場設営を手伝うとともに、養護学校の生徒との餅つきを行い、交流を深めた。

4 思春期教室

(1) 日 時 12月17日（金曜日） 13：20～15：10

(2) 場 所 本校マーケティング教室

(3) 内 容 2年生対象の「思春期教室」において、北翔大学ピアサポートサークルの学生によるワークショップを実施し、性に関する正しい知識の獲得を行い、さらにコミュニケーション能力の向上を図る。

5 コミュニケーション力の育成のための校内研修

(1) 日 時 2月10日（木）12：00～16：00

(2) 場 所 本校会議室

(3) 内 容 「教員のピア形成の必要性」を指摘されていることから、ピア・サポート活動に関する知識・技能や他校の取り組みについて、校内研修等を実施する。

4 成果と課題

○ 成果

- ・1年生の中途退学者数は、本事業開始年度である平成21年度に比べ、22年度が低くなっており、中途退学に歯止めがかかっている。
- ・コミュニケーション能力育成のトレーニングを通して、生徒の人間関係を形成する力やコミュニケーション能力の育成に役立った。
- ・ピア・サポートトレーニングを受けた生徒は、社会、学校、学級の様子に関心を深め、所属するクラス内のコミュニケーションに主導的な役割を務めるようになった。
- ・教員対象の校内研修に教員が積極的に参加することにより、人間関係づくりの重要性が教員間で共有化された。

○ 課題

- ・ピア・サポーター養成研修の機会が少なく、生徒のピア・サポーター数が不足している。
- ・地域と連携したボランティア活動をはじめとする体験的な学習の機会を充実させることが必要である。
- ・教員の予防的・開発的教育相談の手法や集団的カウンセリングの手法などの更なる周知普及が必要である。

○ 次年度に向けて

- ・生徒の実態に合わせた計画にするために、実態調査、中学校との連携、相談を経た上で、多角的な視点での生徒理解を行う。
- ・多様な生徒に同じプログラムは無理があるため、タイプ別のプログラムを設定する必要がある。
- ・ピア・サポーター養成のためのトレーニング時間と、養成したピア・サポーターの活動時間の確保について、工夫・改善を行う。
- ・他校と連携したピア・サポート活動の在り方を研究する。